

平成29年1月28日

## 研修報告書

松戸市議会議員

大塚 健児

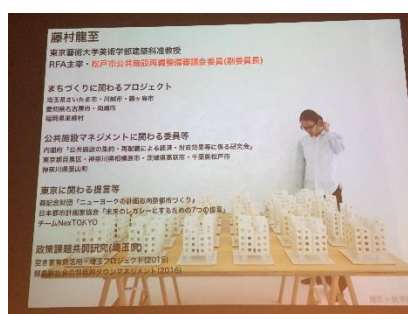
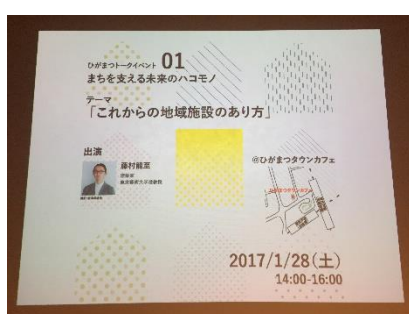
研修:これからの地域施設の在り方について

主催:松戸市

日時:平成29年1月28日(金) 14時~16時

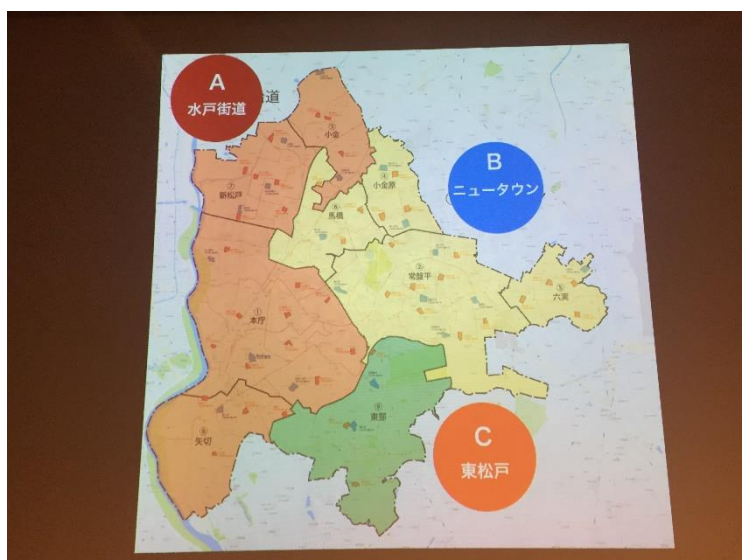
場所:ひがまつタウンカフェ

【研修報告】



現在公共施設の再編計画を松戸市全体で練っているところではあります。

大切なことは、人口の推移をみたところで、何を一番初めにやるのかという優先順位の決め方です。



松戸市を3つの地域に分けます。

A:水戸街道

B:ニュータウン

C:東松戸

以下松戸市が行ってきた大規模公共施設建設事業です。

松戸市(人口48.5万)の社会保障関係費と公共施設事業費の推移

	公共施設事業費 (=投資的経費)	社会保障関係費 (扶助費)
1992 H4	459億6474万円	75億991万円
2001 H13	125億8662万円	132億2385万円
2015 H27	153億2248万円	427億3044万円

松戸市公表データにより作成

松戸市における主な大規模公共施設建設事業

- ・ 21世紀の森と広場 435 億円 (1993)
- ・ 博物館 48 億円 (1993)
- ・ 文化会館 185 億円 (1993)
- ・ 松戸新田第二市営住宅 26 億円 (1993)
- ・ 中央保健福祉センター 24 億円 (1993)
- ・ 中学校給食施設 59 億円 (1994全校完了)
- ・ 和名ヶ谷クリーンセンター 313 億円 (1995)
- ・ 和名ヶ谷スポーツセンター 57 億円 (1996)

1992年に箱モノ施設投資のピーク  
現在は新規の箱モノは減り、小中学校の耐震化改修等が中心の投資

これまでは社会保障費の歳出割合が低かったものの、もはや逆転。  
今までのように多額の歳費をかけて公共施設事業を行うことはできません。

そこで具体的な策の説明。

公共施設整備の新しい方向性

従来型

- ・ 要求水準を設定し、提案を審査(PFI等含む)

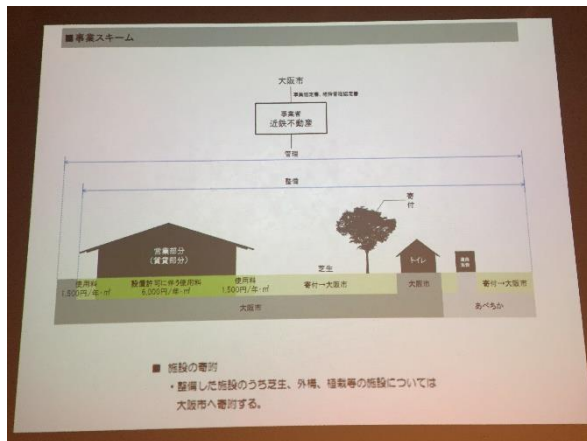
公民連携(PPP)型

- ・ 公有地の利活用等
- ・ 民間提案で事業内容を設定
- ・ 事業者の事業内容を審査

ex. オガールプラザ(岩手県紫波町)・てんしば(大阪市)・水上公園(福岡市)

審査・運営に高い透明性が求められる

これからは公民連携(PPP)型と言って、自治体と民間が協力しながら事業を行うべきとのことでした。具体的なやりかたは以下のとおりです。



これは他市の事例ですが、公民連携(PPP)型で行った公共施設建設です。



#### 【まとめ】

社会保障費が右上がりとなるため、公共施設建設事業は抑えていかなければならないという時代に突入しました。なるべく無駄のない公共施設の建設を心がけなければなりません。。

例えば学校のプール。夏季にしか使わず、広い面積を必要とします。

利用率も低く、面積も必要な施設を従来通りに建設をしてもいいのか…。

つまり学校のプールは屋上に建設という時代です。

というように、本当にその公共施設が必要なのかと熟慮した上で建設という運びになります。

松戸市の財政状況を見ると大変厳しい現実です。

これからは公共施設建設の優先順位を決めた上で、無駄のない有効な公共施設を心がける必要があります。今までの建設とは明らかに時代が変わりました。

以 上